

### 長善館史料館所蔵資料目録完成記念号

#### 『長善館史料館所蔵資料目録』が完成し今後の活用に期待

燕市が筑波大学と連携して平成25年度から進めてきた長善館史料館所蔵資料の整理・調査がこのほど完了し、所蔵資料の目録が完成しました。約2000点にも及び史料を網羅した目録で、長善館の歴史資料が一目でわかり、長善館研究のみならず地域の歴史研究を行ううえでもきわめて有効な資料となりそうです。

整理・調査を行った資料の多くは歴代館主が家族や塾生とやりとりをした書簡で、その内容からは鈴木家や師弟の親密な関係性をうかがい知ることができます。在京の卒塾生からの近況報告や歴代館主の死に際した見舞いなどもあり、師弟関係の親密さを浮き彫りにする資料が数多く見受けられました。またほかにも書や掛け軸など当時



4年をかけて完成した長善館史料館所蔵資料目録

の長善館の姿を映し出している資料も多く、それらを種類別、年代別に整理を行い、今後の研究や資料の展示に役立てられるよう一覧が作成されています。

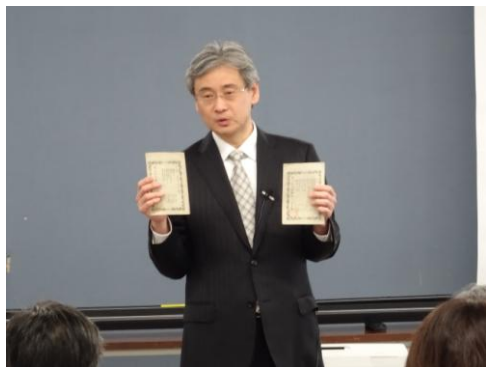
元から長善館にあった書簡などは歴代館主ごとに整理されていましたが、寄贈された資料は未整理のままで、出所がわからないものも多くありました。そのため展示などを行う際に有効活用しようと目録データの作成に取り組んできたものです。これらの資料はもと、50年ほど前に鈴木家から県が購入し、県指定文化財となっている「長善館学塾資料」と一緒に保管されていたもので、調査を指導した筑波大学の中野目徹教授によれば「同等の価値がある」と言われています。今後は完成した目録が研究や企画展示等に大いに活用され、史料館の活性化につながっていくよう期待されるそうです。

なお目録は1部1000円で、長善館史料館や分水良寛史料館、中央公民館、市内図書館で購入することができます。地域の歴史研究のスタートとして役立ててみてはいかがでしょうか。

## ●目録完成記念講演会開催

また目録の完成を記念し、調査に当たった筑波大学の中野目徹教授による記念講演会が3月18日（土）粟生津公民館にて開催されました。「史料から見えるありし日の長善館」と題した講演で、約90人の参加者が教授の講演に聞き入りました。まず講演の最初で「学生にとっては現資料を見ながら実習を受けられ、また燕市にとっても長善館の資料の全体像を明らかにできた、非常に有意義な事業」であったと振り返り、資料の整理については実際使用した専用の整理封筒を片手に説明をするなど、作業の様子を丁寧に紹介され、講演に参加した人にとっては非常にわかりやすい内容だったようです。また今回の史料の整理や調査を通じ、非常に興味深かった点については「手紙」の存在であるといい、館主、鈴木家の濃密な家族関係をうかがい知ることができ、歴代館主の学びの様子など当時の様子が明らかになったと調査の成果を強調していました。

今後はこうした史料を活用しながら、史料館を「学校教育や地域の学習活動の拠点」にし、「長善館の教えを広く知らせることが一層重要である」と、講演を締めくくりました。



史料を手に説明する中野目教授



講演会の様子

## ●長善館史料館所蔵資料「目録」完成記念長善館史料館掛軸展も開催

また中野目教授の講演会の後には、長善館史料館掛軸展もあわせて開催されました。粟生津公民館を会場に3月22日（水）から26日（日）の5日間、一堂に展示された長善館史料館の所蔵資料に多くの来場者が惹きつけられていました。今回の展示資料は、歴代館主の書や掛軸を中心に選ばれました。これまでは個別に館主の資料を展示する企画展を長善館史料館で開催したことはありましたが、歴代館主の資料を一堂に



まとめて展示し、公開することは初めてだったこともあり、来場した方は館主それぞれの人間性もうかがい知ることができる資料の数々に目を見張っていました。

また会期の最終日には、諸橋轍次記念館研究指導員、佐藤海山氏による掛軸の解説会も行われ、歴代館主の業績や功績を交えた解説に熱心に聞き入る様子がうかがえました。